

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス はびちやれ		
○保護者評価実施期間	2025年 9月 16日		2025年 10月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9人	(回答者数) 5人
○従業者評価実施期間	2025年 9月 16日		2025年 10月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 10月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	女の子専用、スタッフも全員女性で子供たちが安心して過ごせる環境であること。また定員10名の小規模のため、一人ひとりの特性や気持ちに寄り添った丁寧な支援が可能なこと。	思春期の女の子が安心して自己表現できるよう、プライバシーに配慮した空間づくり・声かけ・相談体制を整備していること。また、共感的なコミュニケーションを重視し「聴く」「受け止める」支援を意識的に実施していること。	女の子の発達特性や年齢に応じたライフスキル講座(身だしなみ・人間関係・将来設計)を定期的を実施すること。スタッフ研修を継続し支援スキルの均一化と質の向上を目指す。
2	創作・デザイン活動を通じた自己表現の支援。 デザインやクラフト、お菓子作りなどの創作活動を取り入れ、自己表現や達成感を得られる楽しいプログラムを実施。 またオープンしたばかりのためプログラムや環境の改善や対応に柔軟に対応できる。	個々の発達段階や趣味に合わせたプログラム構成を意識し創作活動では「できた!」を感じられる支援を行う。 スタッフ間で話し合い、視覚支援でわかりやすく安心できる環境に。	デザイン活動の成果を発表できる展示会やイベントを企画、参加し社会参加の機会を増やす。
3	B型事業所の運営を通し連携することで将来的に就労支援へスムーズに移行、将来につながる一貫した支援ができる。	デザインや制作活動、軽作業等様々なものを取り入れB型でも活かせるスキルに触れられるよう活動内容を工夫する。 利用する子の「好き!」を伸ばし将来の働く意欲につなげる支援を意識する。	B型スタッフのとの情報共有を行い、連携をさらに強化し進路相談、体験の機会を増やす。 活動成果を展示、発信する機会を計画し、意欲付けと達成感を高める。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	開設から間もない新規事業所のため地域や関係機関との連携体制がまだ十分に整っていない。	地域や学校とのネットワーク構築が進行中。	地域行事や地域の学校、相談支援、医療機関への訪問、連携を強化し「女の子が安心して通える場所」としての認知を広げる。またSNSやチラシなどの広報活動を増やす。
2	14時までB型事業所を行っているため放デイの規模が小さく受け入れ枠に限りがあることや長時間の受け入れが不可なこと。	利用児童数の安定化や送迎範囲の調整が必要な段階。	短時間でも安心して利用できる、預けたいと思えるよう情報共有や研修等を通し支援の質と一貫性を高める。
3	小規模事業所のためスタッフ数も最小限のため活動が限定的になりがち。	女性スタッフに限定しているため人材確保に時間がかかる。 新しいスタッフが多く連携や情報共有を進めているところ。	スタッフの専門研修やスキルアップを継続的に行い活動の幅を広げる。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 放課後等デイサービス はびぢやれ

公表日 2025年10月22日

利用児童数 9名

回収数 5名

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	5					
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	3	1		1	適切な人数かどうかはわからないが 少人数なので目は届きやすいと思ってい る。	利用児が何人なのかそれにスタッフが何 人いて対応しているのかを連絡帳や送迎 時に伝達・記載する。
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思 いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や 情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	5					
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。 また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	5					
適切 な 支 援 の 提 供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援 が受けられていると思いますか。	5					
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と 合っていると思いますか。	3			2	公表しているプログラムをしっかりと目を 通せていない	再度公表プログラムを配布して目を通し てもらう。
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分 析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されて いると思いますか。	5					
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの 「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支 援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適 切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思います か。	5					
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	5					
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いま すか。	5					
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機 会がありますか。				5		開所したばかりのため確立ができていな いので今後地域との関わりを形成してい く。
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等につ いて丁寧な説明がありましたか。	5					
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされま したか。	5					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニ ング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われています か。				5		開所したばかりで交流会等はまだ行えて いないため今後機会を作っていく。
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状態に ついて共通理解ができていると思いますか。	5					
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	2			3		スタッフの研修などをもとに今後は相談 や助言の機会を作る。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	5					
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流 の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだ い向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けら れるなど、きょうだいへの支援がされていますか。				5		スタッフの研修などをもとに今後は相談 や助言の機会を作る。
19 子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されてい るとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周 知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されています か。	5						

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	5					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	5					
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	5					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	2	1		2		マニュアル自体は契約時に説明しているが定期的に周知する必要がある。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。				5		開所して間もないため期間が来ておらず子供とまだ実施が行えていない。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	5					
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	5					
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	5					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	5					
	29	事業所の支援に満足していますか。	5					

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日			
放課後等デイサービス はびちやれ		2025 年 10 月 24 日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		学年に応じて訓練場所を分けている	
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6			
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6			
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	1		
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6			
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5	1		
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6			
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6			
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	2		
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	3	3		
適切な支援の提	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6			
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6			
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4	2		
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5	1		
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	1	5		
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4	2		
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6			
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	2	4		

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	3	3		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	2	4		
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定する力を育てるための支援を行っているか。	6			
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	1	5		B型事業所開所しているため関係機関との連携は取れるが保育等の幼少期はまだ確立できていないので今後関係を形成し体制を整える。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。		6		未就学児との関係機関との連携が取れていないのが今後の課題。今後あいさつ回り等を通して関係を形成する必要がある。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6			
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		6		オンライン上の研修しか行っていない。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		6		まだ形成できていないので今後機会を作る必要がある。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		6		参加できていない。 協議会等に参加できるよう時間の確保を行う
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4	2		
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		6		開所したばかりで参加できる研修の情報が不足し関係機関との連携不足のため今後参加できるよう関係機関との連携を図る。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	3	3		
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6			

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		6		開所したばかりで参加できる研修の情報が不足し関係機関との連携不足のため今後参加できるよう関係機関との連携を図る。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5	1		
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		6		地域にまだ周知されていないので今後営業等を行う。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	2	4		マニュアルは準備済み、訓練期間がまだ来ていないため実施できていない。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6			
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		6		提携病院があるため今後アレルギーの子がいた際に対応できるようする。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3	3		
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6			
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6				